記者発表資料

令和６年７月１９日
国土交通省東北地方整備局
山形河川国道事務所
新庄河川事務所
山形県県土整備部河川課

最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクトの進捗状況
～令和２年７月豪雨から４年～

令和２年７月豪雨により甚大な被害が発生したことから、再度災害防止のため対策を進めている「最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト」の現在の進捗状況について発表します。

〇氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策〇
＜河道掘削（河川の水位を低下させ流下能力を確保）＞
・全体計画約９０万㎥（概ね７年間）に対して、令和６年度末までに約７３万㎥（約８割）の掘削を完了予定。

＜堤防整備・調節池整備（河川からの氾濫を防止）＞
・国管理区間の堤防整備６箇所のうち２箇所（白須賀地区（大蔵村）：令和３年度、長島地区（村山市）：令和５年度）が完了。
・押切地区（河北町）においては令和５年度から工事着手。横山・大石田地区（大石田町）においては用地調査及び用地補償を、溝延地区（河北町）、左沢（百目木）地区（大江町）においては用地補償を実施。
・県管理区間の白水川の堤防復旧・嵩上げが令和４年度完了し、大旦川の暫定調節池が令和５年度に完成し運用開始。
・新たに河川整備を行う和田川、小鶴沢川、月布川、古佐川、五十沢川の５河川について、令和３年度に河川整備計画に位置づけ、令和４年度事業着手。早期の工事着手に向け調査設計、用地補償等を実施（五十沢川は令和５年度工事着手）

＜遊水地改良（下流区間の河川水位を低減）＞
・大久保遊水地（村山市・河北町）においては、令和５年度から工事着手。

〇被害の軽減、早期復旧・復興のための対策〇
・山形河川国道事務所及び新庄河川事務所では、令和２年７月豪雨から４年、令和４年８月洪水から２年に関する行事を実施中。（予定含む）
・山形県では、水害リスク情報空白域の解消のため、新たに中小河川等 484 河川の洪水浸水想定区域を令和６年度に指定する予定。（村山地域は令和６年６月１４日に指定）

今後とも地域と連携しながらプロジェクトを推進し、安全で安心できる地域づくりを目指します。

《発表記者会》山形県政記者クラブ、米沢記者クラブ、酒田記者クラブ、
鶴岡記者会、新庄新聞放送記者会、山形建設業界専門紙

問合せ先
○国土交通省　東北地方整備局　山形河川国道事務所 TEL　０２３－６８８－８４２１（代表） 副所長（河川）　山影（やまかげ）　修司（しゅうじ） ○国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所 TEL　０２３３－２２－０２５１（代表） 副所長（河川）　畑井（はたい）　言介（げんすけ） ○山形県　県土整備部　河川課 TEL　０２３－６３０－２６２０（直通） 河　川　課　長　佐藤（さとう）　崇（たかし）

【概要】　最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト

〇令和2年7月豪雨により甚大な被害が発生したことを踏まえ、最上川中流・上流において、国・県・沿川市町村等が連携し、「最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト」を策定（令和3年1月）し、ハード・ソフト両面で治水対策を推進している。

最上川本川の主要事業（国）

- 河道掘削工事は、全体計画90万m3に対して、今年度までに約73万m^3（約8割）の掘削を完了予定。
- 白須賀地区（大蔵村）の堤防整備は令和3年度に、長島地区（村山市）の堤防整備は令和5年6月完成。
- 押切地区（河北町）、大久保遊水地（村山市・河北町）においては、令和5年度から工事着手。横山・大石田地区（大石田町）においては用地調査及び用地補償を、溝延地区（河北町）、百目木地区（大江町）においては用地補償を実施。
- 令和2年7月豪雨洪水被害の記憶を風化させない取り組みとして、「巡回パネル展」を実施中。

最上川支川の主要事業（県）

- 災害復旧は、令和4年度までに全箇所（71河川244箇所）完了。
- 白水川の堤防復旧・嵩上げが令和4年度完成。
- 大旦川の暫定調節池が令和5年6月完成し運用開始。
- 新たに河川整備を行う和田川、小鶴沢川、月布川、古佐川、五十沢川の5河川について、令和3年度に河川整備計画に位置づけ、令和4年度事業着手。早期の工事着手に向け調査設計、用地補償等を実施（五十沢川は令和５年度工事着手）。
- 水害リスク情報空白域の解消のため、あらたに中小河川等484河川の洪水浸水想定区域を令和６年度に指定する予定。（村山地域は令和６年６月１４日に指定）

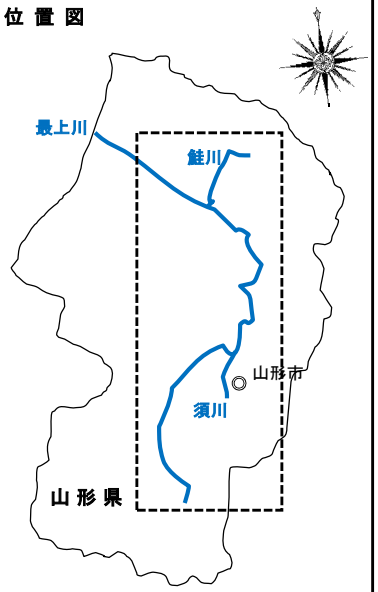
R3.1.29　策定

最上川中流・上流 緊急治水対策プロジェクト

～地形特性を踏まえた河川整備と農業や雪対策と連携した治水対策の推進～

〇令和２年７月豪雨により甚大な被害が発生した最上川水系では、河川整備に併せ、地域の主産業（農業等）や豪雪地域などの地域特性を踏まえた農地・農業水利施設の活用や雪対策と連携した高床化などによる対策を組み合わせた流域治水を推進することで、令和２年７月豪雨＜中上流部で戦後最大＞及び昭和４４年洪水（低気圧）＜下流部で戦後最大＞と同規模の洪水に対して、国管理区間での氾濫を防止するとともに流域での浸水被害の軽減を図ります。

位置図



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〇河川区域での対策
- 河道掘削、堤防整備、分水路整備、遊水地改良　等

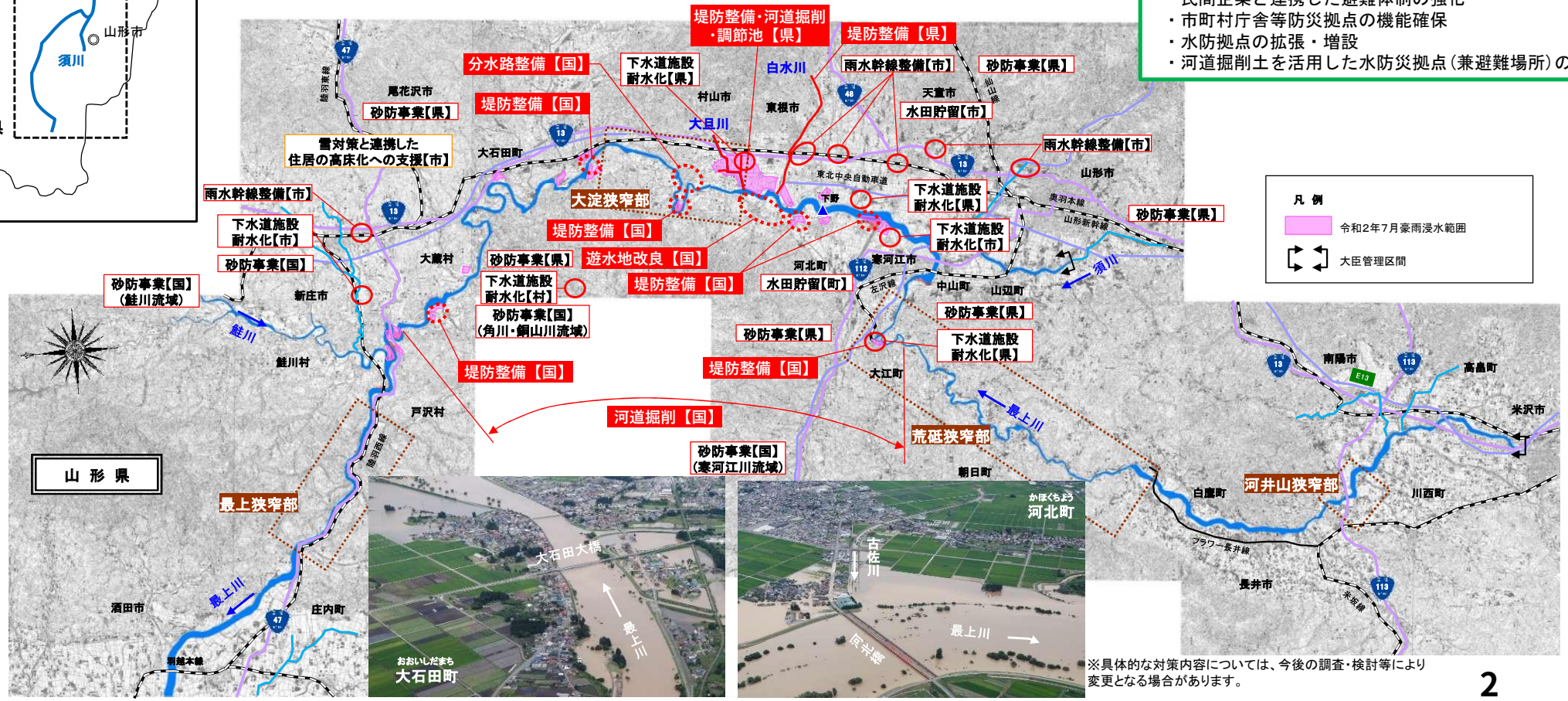
〇集水域での対策
- 砂防堰堤等の整備
- 雨水幹線の整備、貯留管
- 利水ダム等２５ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、山形県、東北電力(株)、土地改良区など）
- 森林整備・治山対策・水田貯留(田んぼダム)
- 農業用排水機場等の整備
- 下水道施設(処理場等)の耐水化

■被害対象を減少させるための対策

〇氾濫域での対策
- 災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導
- 土地利用規制・誘導(災害危険区域等)
- 家屋移転、かさ上げ補助制度の創設
- 雪対策と連携した氾濫被害の軽減(高床住宅等)

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

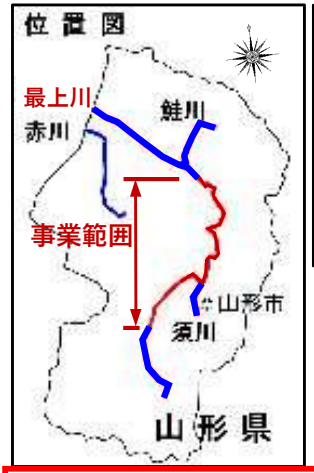
〇氾濫域での対策
- 水害リスク空白域の解消
- 危機管理型水位計の設置
- 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- R2.7出水の課題を受けたタイムラインの改善
- 流域自治体との洪水対応演習
- 講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
- メディアと連携による洪水情報の提供
- まるごとまちごとハザードマップの促進
- 広域連携による避難態勢の強化
- 民間企業と連携した避難体制の強化
- 市町村庁舎等防災拠点の機能確保
- 水防拠点の拡張・増設
- 河道掘削土を活用した水防災拠点(兼避難場所)の整備



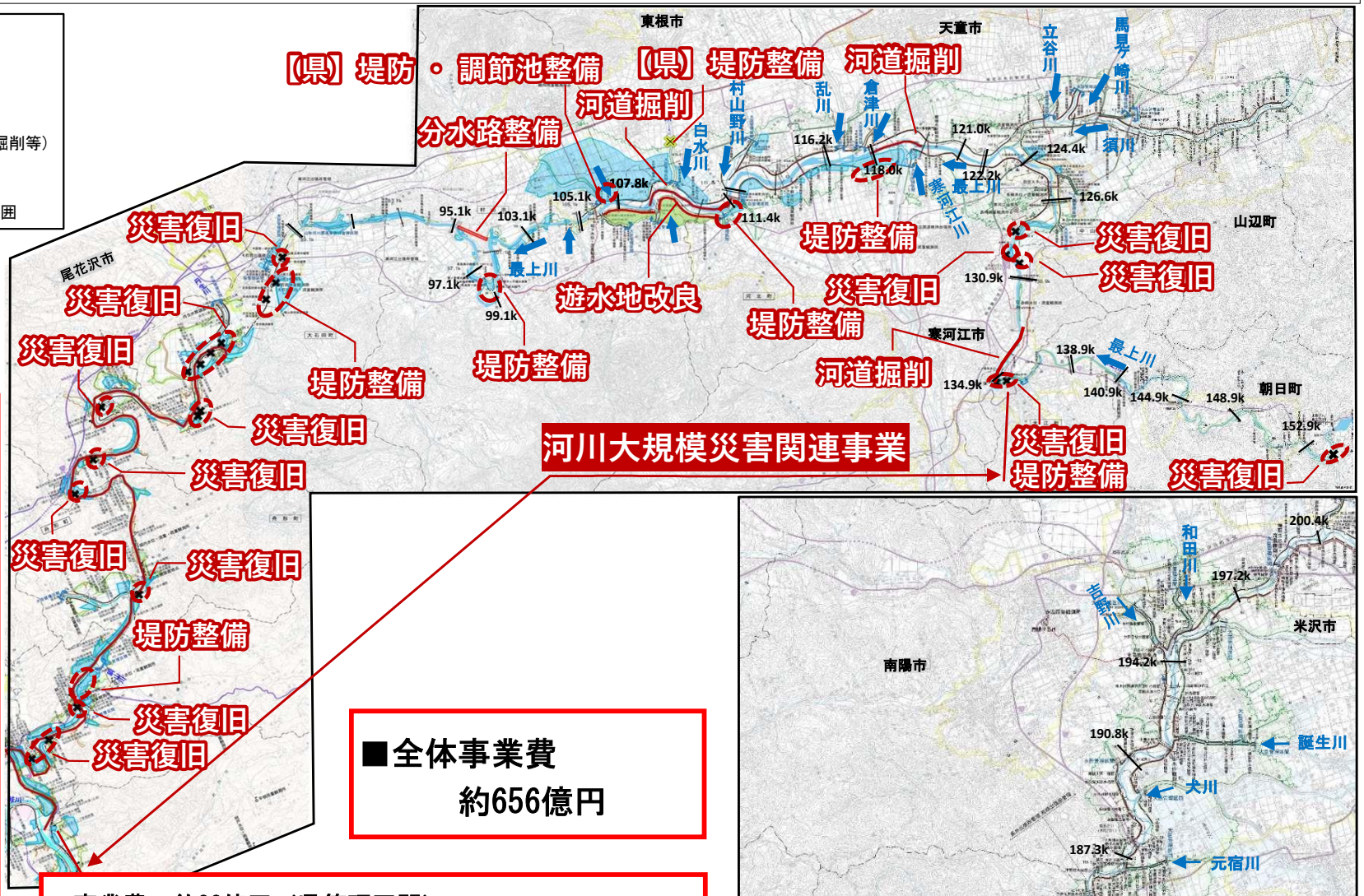
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

「最上川緊急治水対策プロジェクト」

〇令和2年7月豪雨により、甚大な被害が発生したことを踏まえ、最上川中流～上流において、国、県、市町村が連携し、被災した箇所において、集中的に再度災害防止対策を実施します。事業の実施にあたっては、地域の皆様と調整しながら進めてまいります。



凡例
- 堤防決壊箇所（県管理）
- 堤防・護岸等被災箇所
- 改良事業箇所（築堤・掘削等）
- 大臣管理区間
- 令和2年7月豪雨浸水範囲

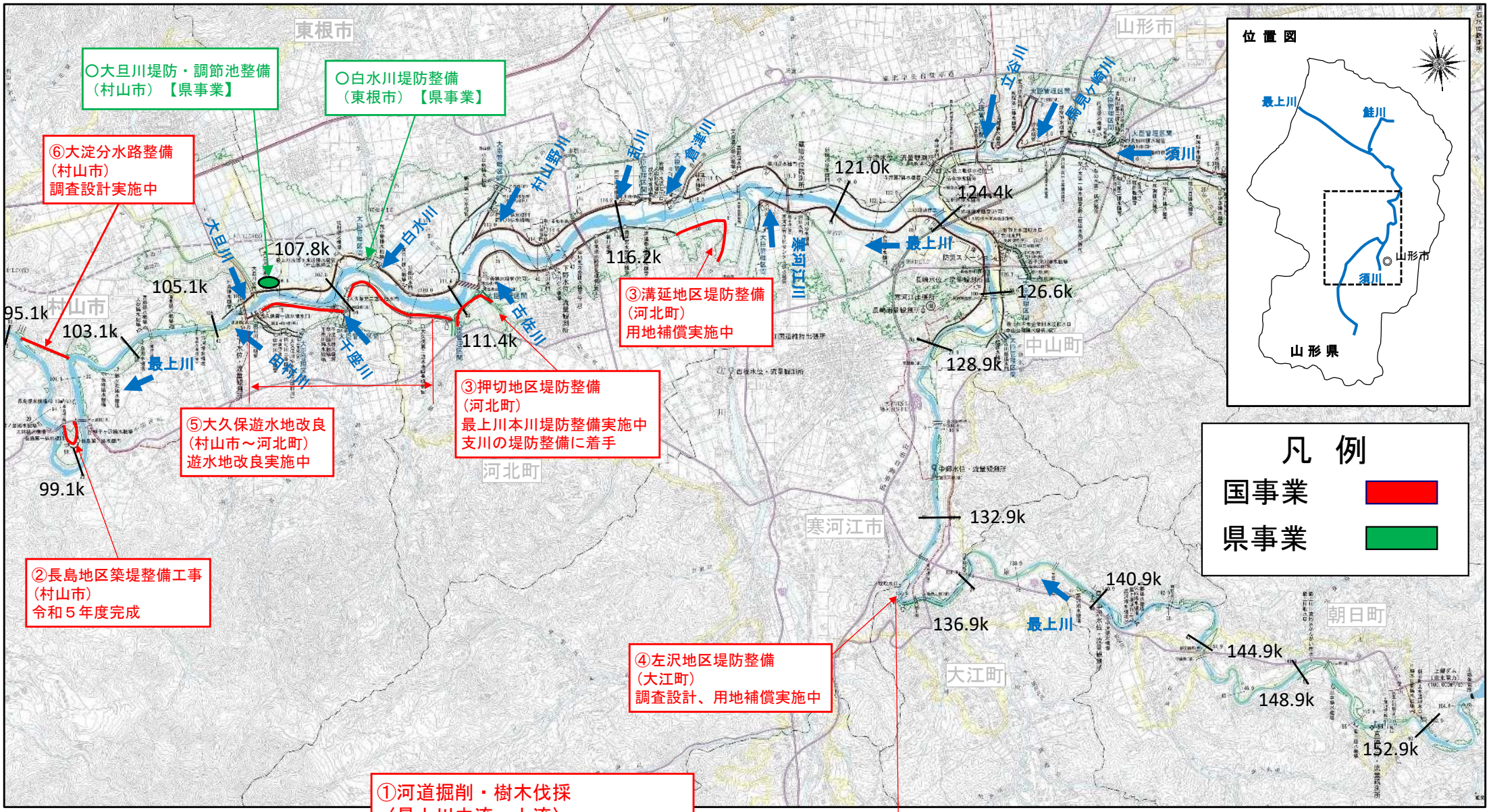


■事業費　約568億円（国管理区間）
■事業種別
〇災害復旧
　最上川中流
　　全体事業費　約51億円
　　事業期間　令和2年度～令和3年度
　最上川上流
　　全体事業費　約11億円
　　事業期間　令和2年度～令和3年度
〇大規模災害
　最上川中流
　　全体事業費　約146億円
　　事業期間　令和2年度～令和11年度
　最上川上流
　　全体事業費　約354億円
　　事業期間　令和2年度～令和11年度
〇推進費
　　全体事業費　約6億円
　　事業期間　令和2年度～令和3年度

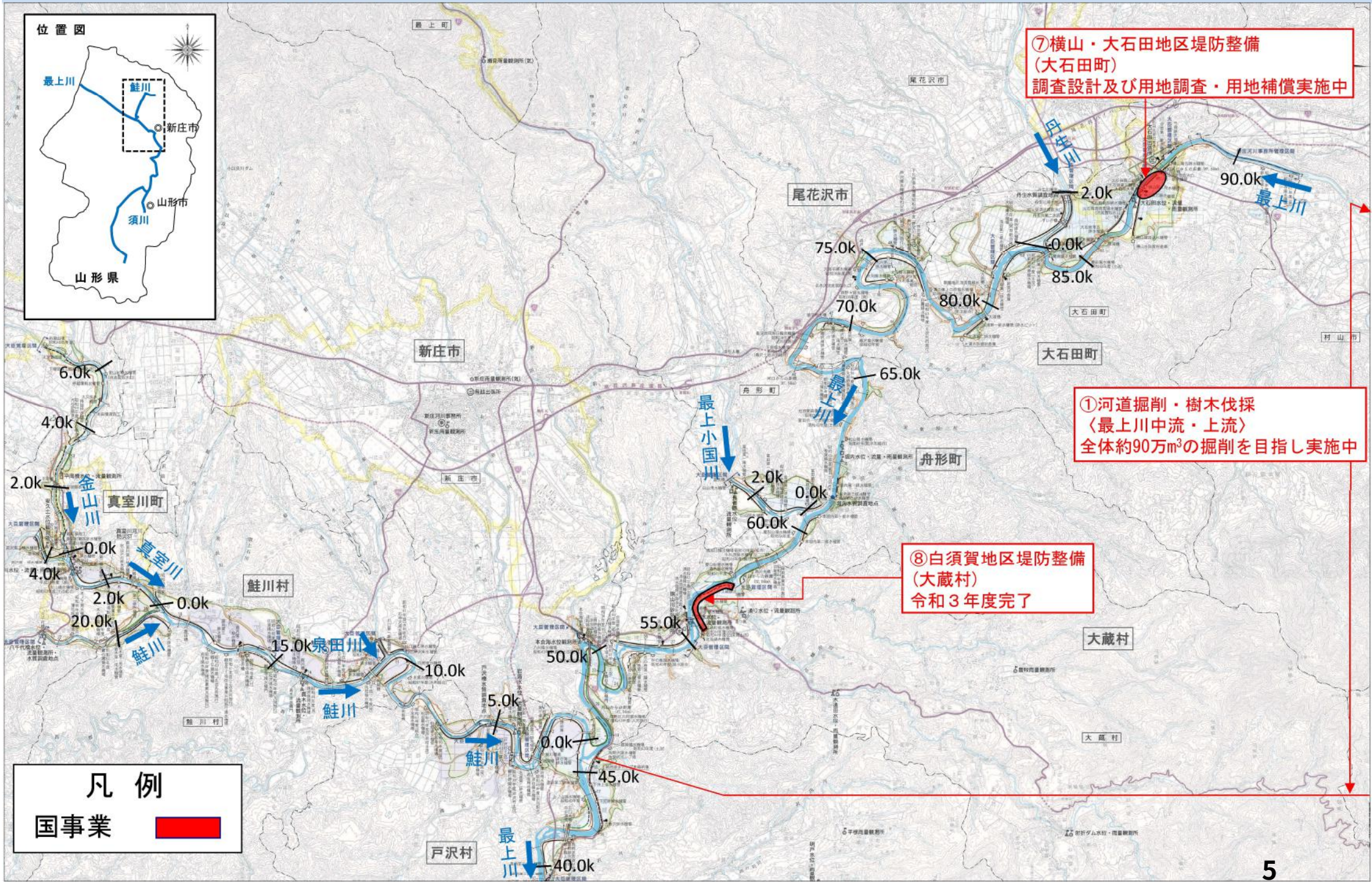
■全体事業費
約656億円

■事業費　約88億円（県管理区間）
■事業種別
〇災害復旧　全体事業費　約62億円（県内242箇所）
　　事業期間　令和2年度～令和4年度
〇改良復旧　全体事業費　約26億円（白水川、大旦川）
　　事業期間　令和2年度～令和4年度

緊急治水対策プロジェクト　主要事業箇所



緊急治水対策プロジェクト　主要事業箇所



①　河道掘削

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○最上川本川で「河道掘削」に着手し、現在推進中。全体計画約９０万m³のうち、
本年度までに約７３万m³（約８割）の掘削を目指し施工中。令和８年度完成予定。

工事状況





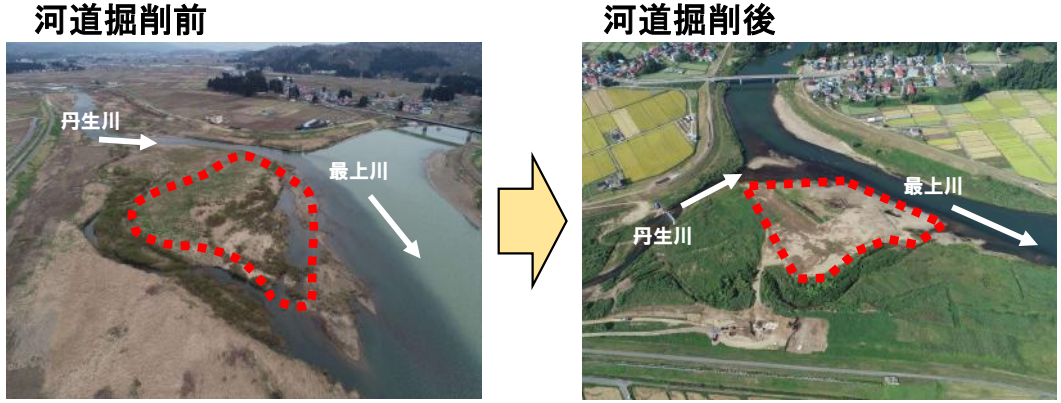
最上川中流大蔵地区河道掘削工事

令和４年度完了箇所



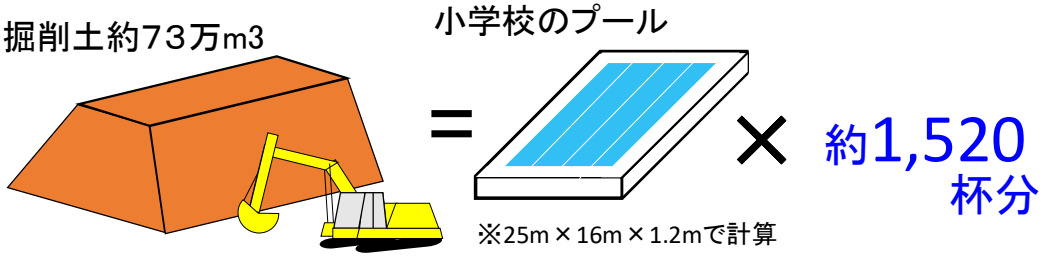
最上川上流吉田地区河道掘削工事

令和５年度完了箇所



最上川中流大石田地区河道掘削工事

令和6年度までに掘削完了予定の土砂の量の合計



② 長島（ながしま）築堤

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

〇河川からの氾濫を防止するため「堤防整備」を実施し、令和５年６月完成。

施工前

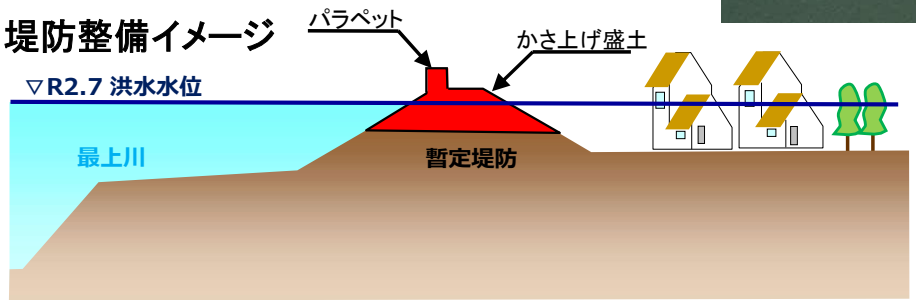


完成箇所





堤防整備イメージ



③　押切築堤　溝延築堤

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○河川からの氾濫を防止するため「堤防整備」を実施。
　押切地区において最上川本川の築堤工事の外、支川古佐川、支川法師川の築堤工事に着手。
　溝延地区においては用地補償を実施中。



※堤防の法線・断面等は、今後の詳細検討により決定します。

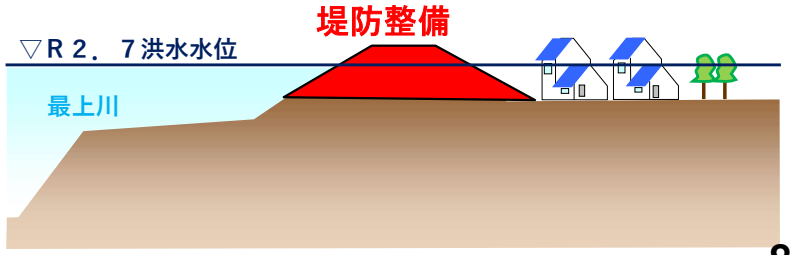


※堤防の法線・断面等は、今後の詳細検討により決定します。



整備箇所
令和2年7月 浸水範囲

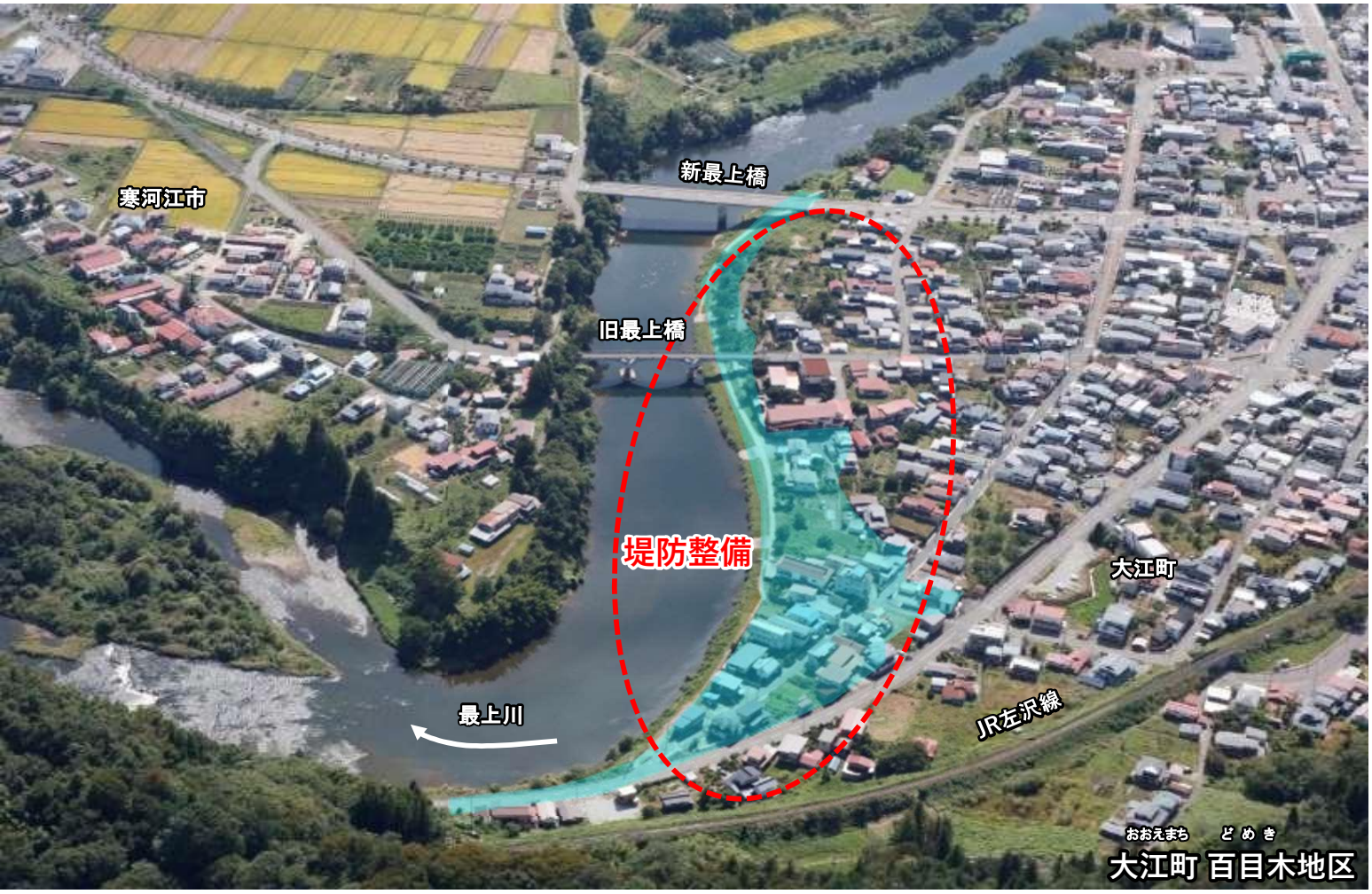
溝延地区堤防整備イメージ



④　左沢（百目木）築堤

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○河川からの氾濫を防止するため「堤防整備」を実施。
　早期の工事着手に向け調査設計および用地補償を実施中。



※堤防の法線・断面等は、今後の詳細検討により決定します。

整備箇所
令和2年7月 浸水範囲



地元説明会開催状況



かわまちづくり検討会実施状況

⑤　大久保遊水地改良

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○下流区間の河川水位を低減させるため「遊水地改良」を実施。
　今年度越流堤改良工事を実施中。



【遊水地改良イメージ】

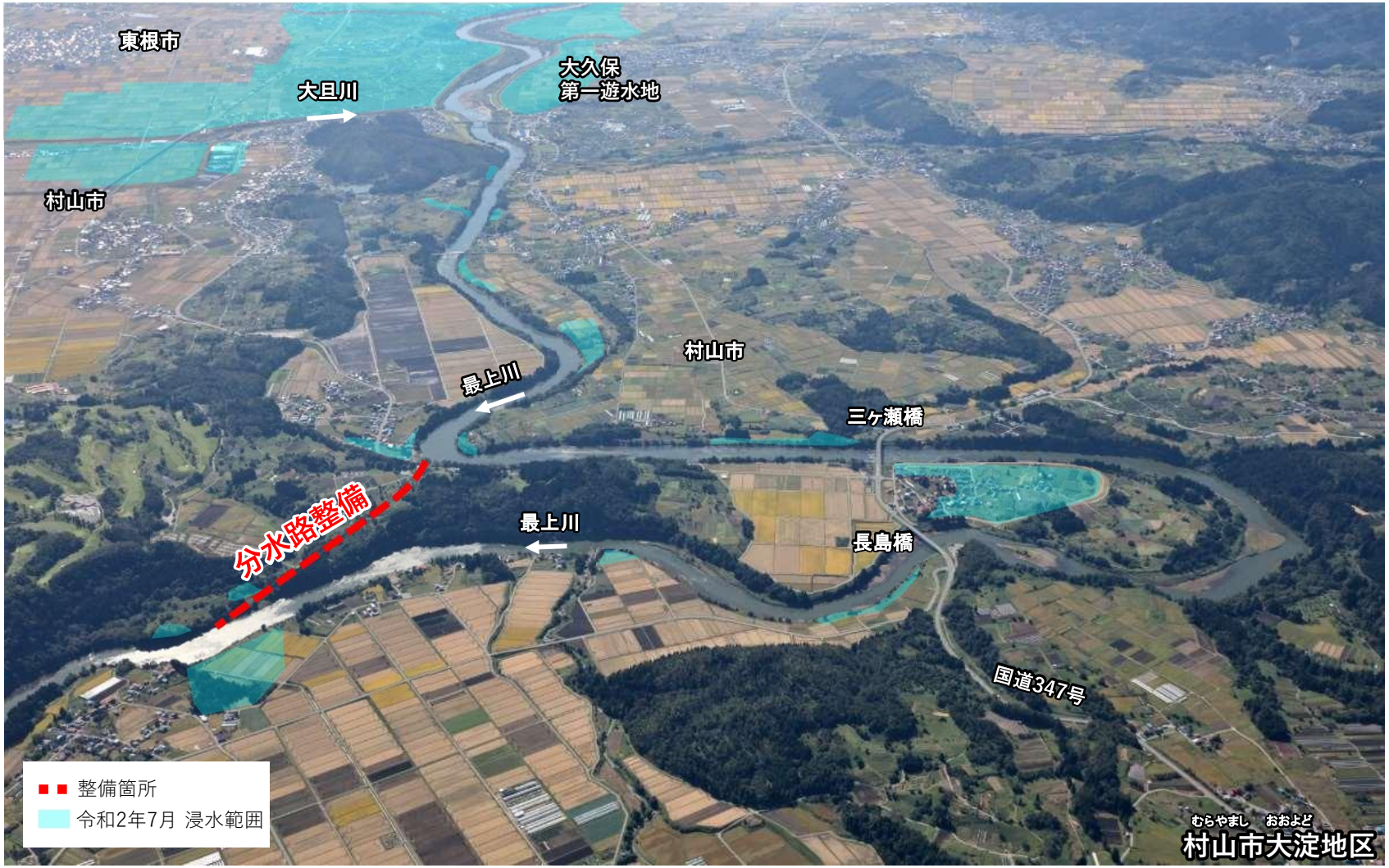
※遊水地改良の構造等は、今後の詳細検討により決定します。



⑥　大淀分水路（おおよど）

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○洪水流下のネック箇所となる大淀地区に「分水路整備」を実施。
　早期の工事着手にむけ、地質調査、環境調査、設計業務等の実施。



※分水路の法線・断面等は、今後の詳細検討により決定します。

⑦ 横山（よこやま）・大石田（おおいしだ）築堤

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

○河川からの氾濫を防止するため「堤防整備」を実施。
　早期の工事着手に向け、調査測量設計および用地調査及び用地補償を実施中。



※堤防の法線・断面等は、今後の詳細検討により決定します。

大旦川堤防・調節池整備、白水川堤防整備 【山形県】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

大旦川
（村山市河島　外）

【被災状況(R2. 7月)】
浸水面積406ha
床上浸水29戸、床下浸水14戸

- 最上川水位上昇に伴い大旦川水門が閉鎖し、浸水被害が発生
- 令和5年6月22日に調節池を一部運用開始



被災状況(R2.7月)



調整池・一部運用開始状況

白水川
（東根市松沢　外）

【被災状況(R2. 7月)】
浸水面積220ha
床上浸水5戸、床下浸水20戸

- 最上川のバックウォーターで堤防決壊し、浸水被害が発生
- 令和4年度末に堤防復旧・嵩上げが完成



被災状況(R2.7月)



堤防復旧・嵩上げ完成状況

【進捗状況の見える化】県管理河川の河川整備状況

氾濫をできるだけ防ぐ
・減らすための対策

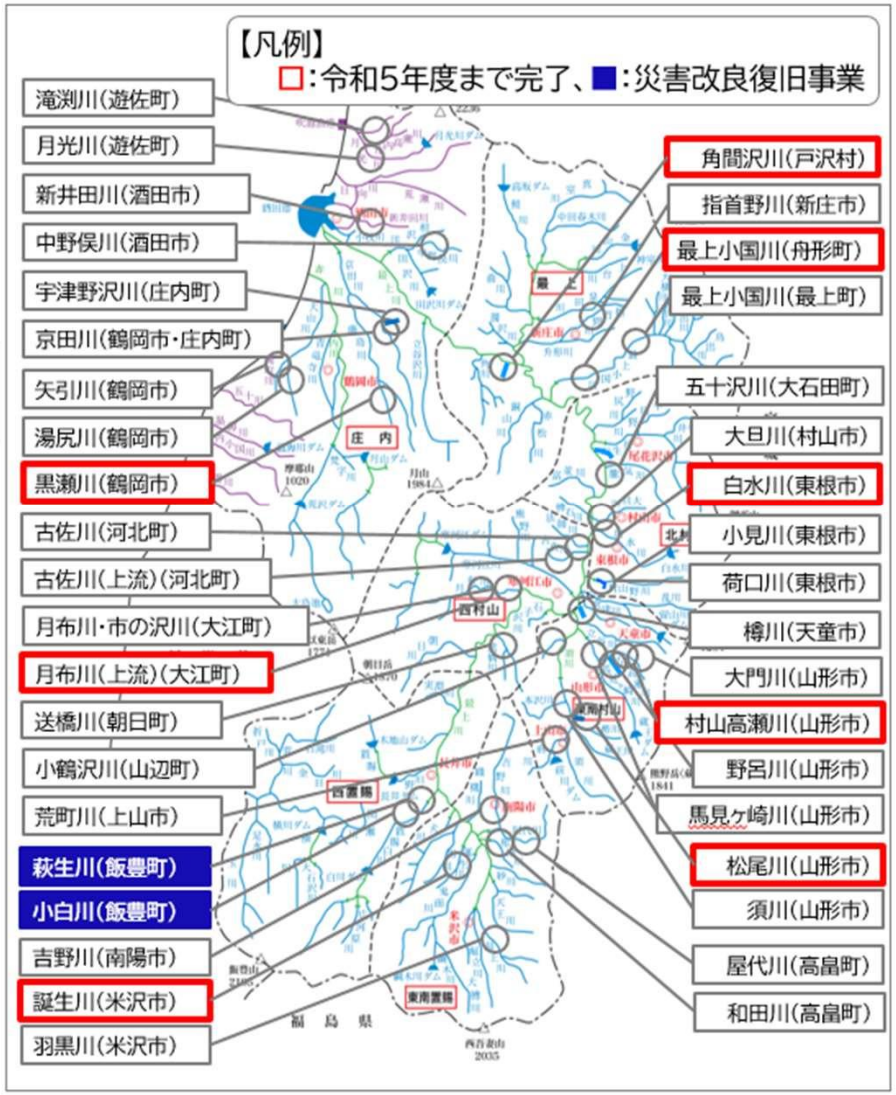
- 近年洪水に対し浸水被害の解消を図るため、国土強靱化予算等を活用し、概ね10年（令和2年度～11年度）で37河川39か所について集中的に河川整備を実施中

令和5年度までに8か所が完成

- 流域治水に係る情報発信として、河川整備の進捗状況を県ホームページに掲載（令和6年4月）

進捗状況の見える化





集中的に河川整備を実施する箇所

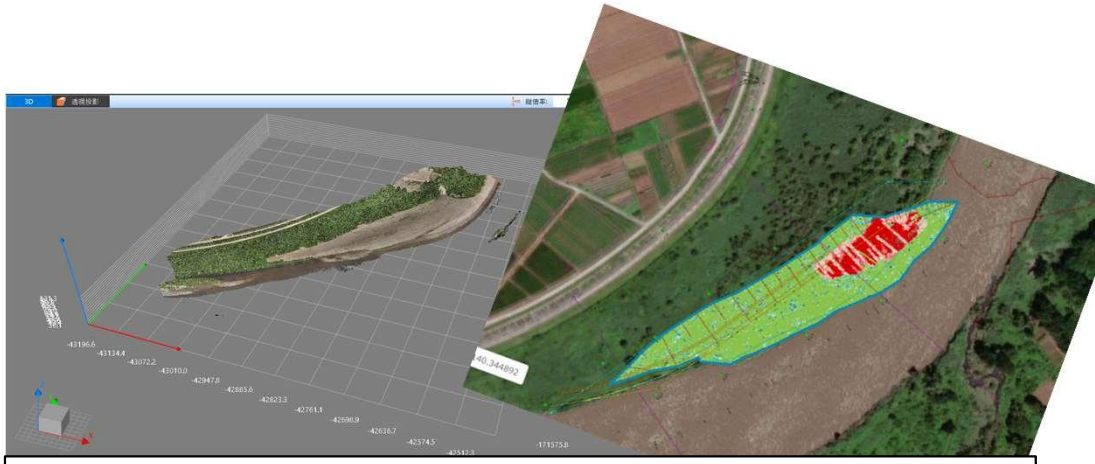
ICT施工の推進・掘削土砂の活用

〇国土交通省全体でi-constructionの推進に取り組んでおり、本プロジェクトにおいてもICT建設機械による施工やUAVを活用した測量等を実施し、生産性の向上を図っている。
〇掘削した土砂は、長島地区の堤防整備工事の盛土材として活用。

■ ICT施工の推進



河道掘削工事においてICT建設機械を使用



UAVによる点群測量を実施し、河道掘削形状、掘削土量を算出

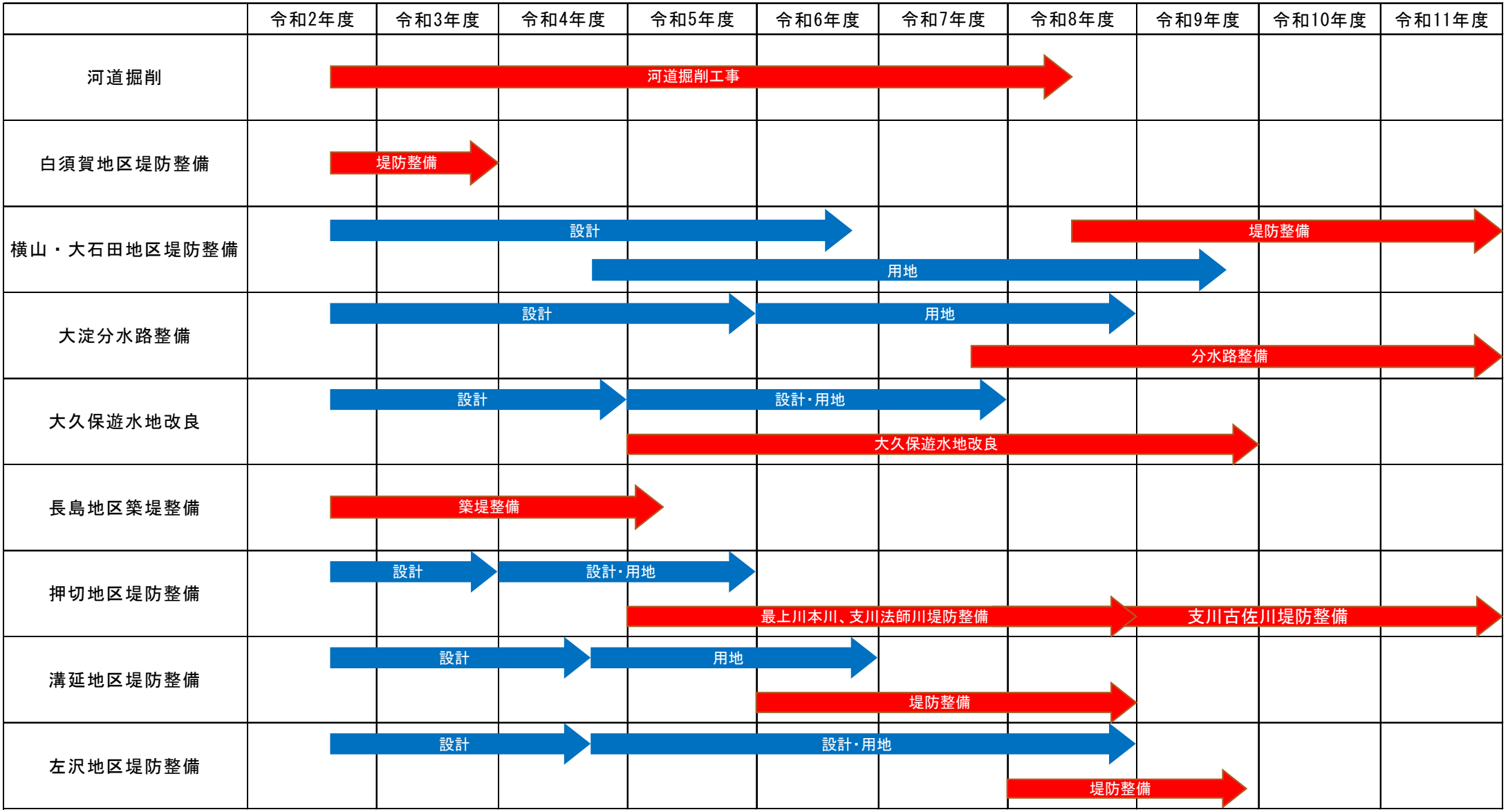
■ 掘削土砂の活用





河道掘削工事において掘削した土砂を、長島地区の築堤工事の盛土材として活用

緊急治水対策プロジェクトの予定



※現時点の予定であり、今後の事業進捗によって変更となる場合があります。

最上川中流･上流緊急治水対策プロジェクト進捗状況

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

特設WEBサイト充実化

緊急治水対策プロジェクトの内容や取組み状況を紹介するとともに、復旧状況を確認できます。

【最上川中流・上流
緊急治水対策プロジェクト】
（http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/project/）

◂ スマートフォン等からのアクセスは、このQRコードからできます。



【最上川上流（置賜地域）
緊急治水対策プロジェクト】
（http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/project2/）

◂ スマートフォン等からのアクセスは、このQRコードからできます。



まるごとまちごとハザードマップ 痕跡表示

近年洪水での被害の記憶を風化させないため、浸水被害のあった河北町溝延地区に痕跡看板を設置しました。
今年度は、中山町において想定最大規模降雨での浸水看板を設置予定です。





小学生向け防災講座

自分達が住む地域の水害の可能性や、洪水への事前の備え、避難の重要性に関する防災授業を行いました。
（6月17日 河北町立溝延小学校）





最上川中流･上流緊急治水対策プロジェクト進捗状況

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

巡回パネル展

水害からの備えを忘れないよう、令和2年7月豪雨や令和４年８月出水の振り返りとして巡回パネル展を開催中です。
（7月22日～10月15日）









イベント時における水防災啓発活動

日本一の芋煮会などイベント開催時における水防災啓発活動（降雨体験など）を実施します。





最上川上流危機管理演習

本格的な洪水期を向かえるにあたり、多発する水災害への備えとして、関係市町及び山形県、国土交通省と連携して、実践的な危機管理演習を行います。





最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト進捗状況

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

水害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域の追加指定）

県は、令和元年度までに指定した70河川に加えて、あらたに中小河川等484河川を令和６年度に指定する予定です。

村山地域は令和6年6月14日に指定

最上・置賜・庄内地域は令和7年3月指定予定

▸ 県ホームページに掲載する洪水浸水想定区域図はQRコードからアクセス可能

山形県は484河川の洪水浸水想定区域を追加指定します

- 河川を管理する国土交通省や県は、水防法に基づき、**河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を「洪水浸水想定区域」に指定**しています。
- これまで、最上川や赤川等、水防上重要な河川（※１）で指定してきましたが、令和３年に水防法が改正され、**すべての河川（※２）が指定の対象**となりました。
- **県は、令和元年度までに指定した70河川に加えて、あらたに中小河川等484河川を令和６年度に指定する予定**です。
- 洪水浸水想定区域は、**市町村のハザードマップにより県民へ周知され、命を守る行動に役立てられます。**



洪水浸水想定区域　追加指定のイメージ

洪水浸水想定区域（河川管理者（国土交通省・県）が指定します） ＋ 避難に役立つ情報（避難場所、避難路など）（市町村が作成・配布します） ＝ 洪水ハザードマップ

- **洪水浸水想定区域の追加指定は、これまで未指定だった中小河川等の氾濫リスクを示し、「河川の氾濫リスク情報空白域」の解消を図ることで、避難行動に役立てていただくための取組です**
- **「氾濫する範囲がこれまでよりも増える」「地域の災害リスクが増大する」ことではありません**

※１ 水防法第11条第1項の洪水予報河川、第13条第2項の水位周知河川　※２ 国土交通省及び県が管理するすべての河川

洪水浸水想定区域とは（水防法第14条第2項）

- 洪水浸水想定区域は、**想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域**を地形等をもとにシミュレーションしたものであり、想定される浸水深と併せて公表します。
- **「想定し得る最大規模の降雨」**とは、国土交通省の基準による**発生確率が1,000年に１回程度**の大きな降雨規模のことで、追加指定する河川についても条件は同じです。
- これは、**施設では守り切れない事態においても、少なくとも命を守ることを目指す**ために、極めて大きな洪水を想定しているものです。



洪水浸水想定区域の確認方法

- 洪水浸水想定区域は、各総合支庁建設部各河川砂防課、県土整備部河川課、及び山形県ホームページ（ホーム＞くらし・環境＞社会基盤＞河川・ダム）から閲覧できます。

県民の皆様へのお願い

早めの情報収集が「命を守る行動」につながります

- 追加指定される区域だけでなく、すでに指定された区域においても、**河川の氾濫リスクをご理解いただき、大雨に対する心構えを高めていただくようお願いします。**
- 大雨が予想される場合は、**気象台が発表する防災情報（「キキクル」等）、県が提供する「河川・情報システム」等の河川水位情報、市町村が発表する避難情報等を確認いただき、迅速・的確な避難**を心がけてください。 ※裏面もご覧ください

